

# 2019年度（平成31年度）研究推進案

学校教育目標	「心身豊かに学び合う子どもの育成」 子ども・教師が、心身ともに健康で、楽しく学びをすすめる
めざす学校像	今日の学び合いを喜び、明日の学びが待たれる学校
めざす子ども像	つよく ゆたかに のびゆく子 ① 意欲的に学び努力し続ける子 ② 豊かな心を持つ子 ③ 体を鍛える子
めざす教師像	子どもの心を動かす教師 ① 思考力・判断力・表現力を育て、学習意欲を引き出す教師 ② 互いに学び合い、授業改善に努め続ける教師 ③ 子どもの実態を常に把握し、協力して迅速に対応する教師 [危機管理意識]
研究テーマ	「伝え合い ひびき合う学びをめざして <u>～学びを深める山場づくり～</u> 」
育成する力	コミュニケーション力 ○聴く力 ○話す力 ○話すための書く力
授業研究でめざす児童の姿	☆ <u>内容を関連づける連続性のある伝え合い</u> ＝ <u>価値ある交流</u> をもとに、自分の考えを深める ○聴く・友達の言いたいことを分かって聴く ・自分の考えと比べながら聴く ○話す・自分の考えを持ち、相手に分かりやすく話す ・友達の意見に対して、自分の考えを話す ○話すための書く力 ・自分の考えが明確になるように、文章の組み立てを考える ・目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすく書く

## I 学校教育目標について

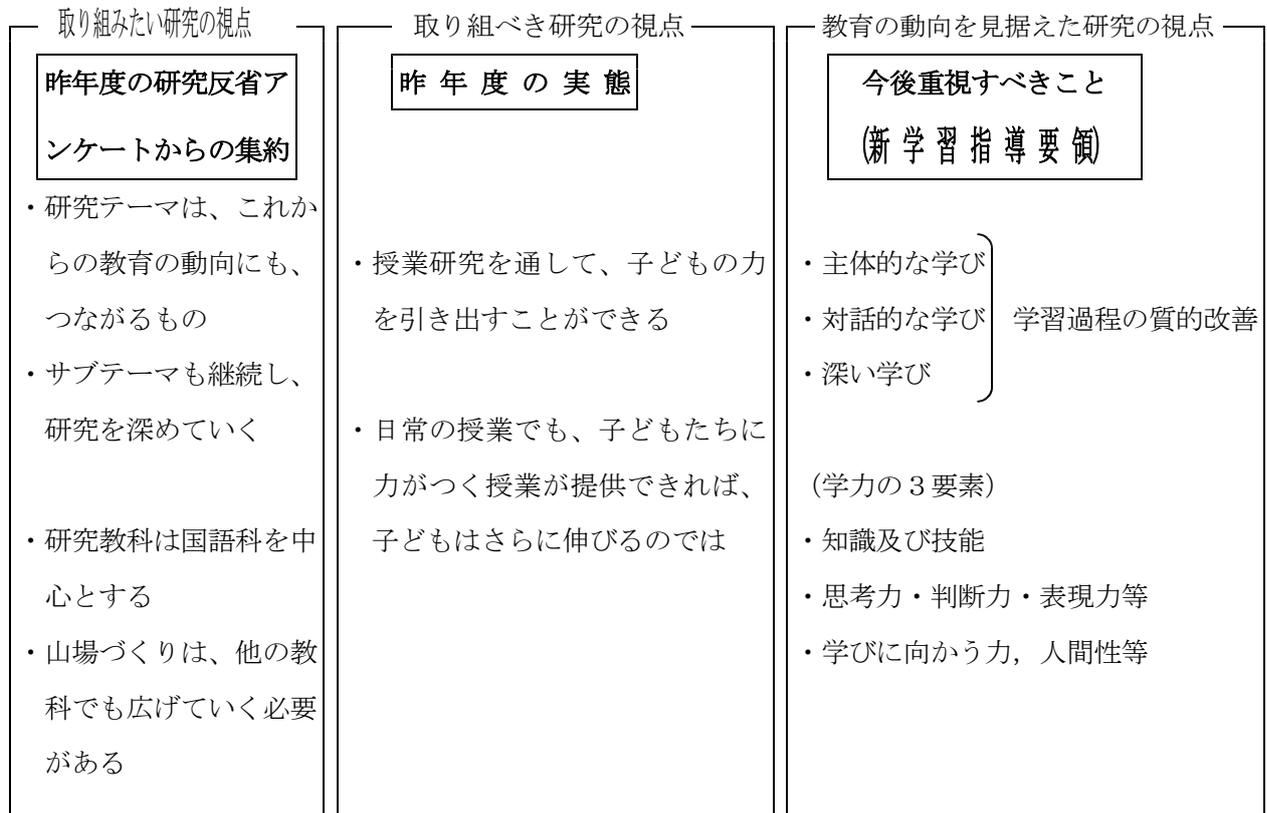
学校長からの提案どおり

## II 研究テーマについて

昨年度は

「伝え合い ひびき合う学びをめざして」

— 学びを深める山場づくり —



### 【研究の方向性】

- 1, 昨年度までの国語科での単元づくり、授業づくりをさらにすすめて、授業の山場設定が子どもたちの学びを深めていくことにつなげていく (研究の継続性)
- 2, 他教科でも「山場づくり」ができないか日常の授業を見直し、改善する (研究の日常性)

本年度の研究主題

「伝え合い ひびき合う学びをめざして」

— 学びを深める山場づくり —

※昨年度とテーマは同じであるが、今年度はより具体的に山場について検討し、どんな問いで山場に向かうのか、山場でどのようにひびき合わせるかを検討する。

### Ⅲ 研究内容と方法

#### 1, サブテーマからめざす子どもの姿

めざす学び	子どもの具体的姿	高めたい子どもの思い
主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学ぶことに興味関心を持つ</li> <li>・ 見通しを持って粘り強く取り組む</li> <li>・ 学習を振り返って次につなげる</li> </ul>	「解いてみたい」 「やってみみたい」 「次は〇〇しよう」
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子ども同士で協働する</li> <li>・ 人と対話する</li> <li>・ 先哲の考えを基に考える</li> </ul>	「聴きたい」 「話したい」 「知りたい」
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知識を関連づけて深く理解する</li> <li>・ 問題を見いだして解決策を考える</li> <li>・ 思いや考えを基に創造する</li> </ul>	「なるほど」(納得) 「やっぱり」(確信) 「そういう訳か」「こうやれば、考えればいい」(気づき) 「その方がいい」(変容) 「なぜ、どうして」(疑問) ↓ <u>山場での児童の姿</u>

#### 2, 授業研究の方法

— これまでの研究を継続して —

- ・ 各学期毎に2学年が1人1授業をする(同日)学年で国語科の1つの単元を研究し、その単元の中から授業を公開する【共同研究的】
- ・ 2学年の中から1クラスが5校時に全員に授業公開をして、授業研究会をおこなう
- ・ その他のクラスは、午前中授業を公開し、授業研究会後、講師の先生から授業のアドバイスを受ける

— これまでの研究成果を活かした取り組みとして —

- ・ 国語科以外の教科の中から、やってみたい教科をえらび、「山場」を意識して1時間の授業展開を考え実践する【個人研究的】
- ・ 5月～2月初めまでに、年間1回はおこなう【日常授業を研究的にみる】
- ・ 講師の先生が授業を参観し、放課後授業アドバイスを受ける

※講師 桃山学院教育大学 准教授

今宮 信吾先生

- ・ 今宮信吾先生
- ・ 後藤猛虎先生
- ・ 自分の授業を見非みてもらいたい希望する先生がいれば交渉します

## (1) 国語科の授業づくり

### ① 単元構想の考え方

#### (別紙参照・国語科の単元構想)

○単元構想の「スリム化」「焦点化」をめざして、教材研究に取り組む

単元目標（めあて）設定【目的】①

- ・単元の工夫（ゴールを目指すことに意欲を持たせる）③
- ・学習計画を立てる（見通しを持たせる）④
  - 1時の活動・目標（めあて）
  - 2時の活動・目標（めあて）
  - 3時
  - 4時
- ・学習のゴール（言語活動）を決める【手段】②

○単元設定は①～④の順で考えていく。 ○①～④のつじつまがあっているかが重要。

### ② 単元チェックシートの活用

#### 単元づくりチェックシート

学習のゴールで単元目標が達成できる「単元構想」になっているか。

例) ゴールを「リーフレットづくり」とした場合、単元目標によってリーフレットの内容が変わってくる。

各時間の活動が、常にゴールを目ざした内容になっているか。

例) ゴールを「図鑑づくり」とした場合、各時の活動が図鑑づくりにつながるもの・目指すものになっている。

各時間の学習のめあてが児童に分かるように示され、共有できているか。

児童が学習の見通しをもてる工夫をしているか。

交流の場（ペア、グループ、全体など）が設定、工夫されているか。

- ・学びが深まる課題であるか。
- ・交流の場の設定は、学びを深めるのに効果的なタイミングか。
- ・交流課題は、めあてにせまる内容か
- ・交流の中で価値づけた子どもの発言は、全体で話し合うべき内容か。

めあてにかえるふり返りの時間が設定されているか。

(参考文献)「明日からできる活用力育成 言葉を鍛えて学力向上」阿部秀高

### ③教材文の吟味

単元目標とゴール（言語活動）のつながりをつけるために

○扱う資料の数を検討する。

（例）教科書に載っている4つの新聞記事の内、いくつ扱うか。

○教材を指導する順番を考える。

（例）3年「姿をかえる大豆」→「食べ物のひみつを教えます」を逆にする。

モデル文で書き方を知り、教材文でさらに記述の優れ点を見つけ、取り入れる。

○モデル文の活用、作成する。

○他の教科書会社の教材を使用する。

### ④山場に向かうための「2つ目の問い」

昨年度の全体会において、山場となる条件の1つを「子どもの価値あるつぶやきや意見を取り上げ、再び問いかける、投げかける、ゆさぶる」とした。

山場には価値あるつぶやきや意見が必要となるため、1授業の中に2つの発問を用意することで山場を作り出すことができると考える。

1つめの発問 →意見の構築、交流、発表 →それを受けた2つめの発問 →山場  
(詳細別紙)

### ⑤山場を支えるコミュニケーションの手立て

・日常的に、意図的にコミュニケーションの場面を使い分けることで、児童の話す聞く力を育てる。

・山場において、話し合う以外の交流方法を教師が多く持つ。

(詳細別紙)

### ⑥ふり返りの時間の設定

【ふり返りの意義】

子ども自身が

○授業を通して学びが深まったことを実感できる。

○めあての達成度を確認できる。

○ゴールへの学びの過程を確認できる。

教師自身が

○子どもたちの学力がめあてに向かって向上しているかを確認できる。

○ふり返りに書かれた学び違いや疑問を、次時のはじめに提示し解決することができる。

○子どもたちに確かな思考力や表現力を定着させることができる。

### 【ふり返りの設定の仕方】

#### 1 時間の授業の中で

○めあてにつながる発言を評価・価値づけする

○ふり返りを書く時間を設定する

「今日のめあてが達成できたかどうかについてふり返りを書きましょう。なぜ達成できたか、理由も書きましょう。」

○ふり返りの型を示す

例) ・めあてが達成できたかどうかについて書く。

・達成できた内容（考え）について詳しく書く。

『～が分かった。』『～ができるようになった。』

・達成できた理由や根拠を書く。

『教科書の～という部分から……ということが分かった。』

『○○さんの考えを聴いて、自分の考えが……に変わった。』

・書き始めを指定する

・文字数を指定する

・キーワードを含ませる

#### 単元の中で

○単元を通して分かったことや考えたことを「めあてのまとめ」としてノートにまとめる。

○単元のめあてに戻るレポートを作成する。

#### ふり返りがしやすいように

○学びの流れが分かりやすい板書をする

○これまでの学習の過程が分かる掲示をする

### ⑦指導案の作成

(別紙参照・国語科指導案書式)

### ⑧校内授業研究会と事後研究会

(1) 授業研究日 1学期(6/14) 2学期(10/25) 3学期(2/7)

5校時(授業公開)、放課後(事後研究会)をおこなう。

#### 授業を見る視点

○めあては適切なものだったか

- 2つ目の問いによって山場を迎えることができていたか
- 山場におけるコミュニケーションのあり方は適切であったか など

#### (2) プレイ室在籍児童の参加について

普段国語をプレイ室で学習している児童は、他のクラスの子どもたちと同様に下校する。ただし、本人・保護者と相談の上、プレイ室に残って学習することもできる。

#### (3) 他教科の授業づくり

- 国語科以外の教科の中から、やってみたい教科をえらび、「山場」を意識して1時間の授業展開を考え公開する。放課後指導助言の先生からアドバイスを受ける。
- 学習指導略案の作成  
(別紙参照・他教科指導略案書式)

#### (4) ミニ講座の開催

- 校内の職員で授業づくりに関わる **得** 情報を発信する。
- 30分間の自由参加形式とする。
- 時期と回数については研究推進だよりで連絡する。
- ミニ講座で使われた資料は、Zドライブ→100校務分掌→101研究推進→2018ミニ講座→資料のフォルダで保存する。

#### (5) 夏季研修会

- 国語科(校内授業)やその他の教科(公開授業)について、話し合いや教材研究をする時間を設定する【半日】

#### (6) 学級づくりの研修会の実施

- 支持的風土のある学級づくりの方法を探る。提案は、人権同和担当とする。